

## アフターコロナへの当院検査室の取組み

◎中村 和幸<sup>1)</sup>、今村 誠志<sup>1)</sup>、小寺 恭子<sup>1)</sup>、池本 七生<sup>1)</sup>、松尾 祥子<sup>1)</sup>、安原 真奈美<sup>1)</sup>、加納 由美子<sup>1)</sup>、三郎迫 通<sup>1)</sup>  
社会医療法人 社団陽正会 寺岡記念病院<sup>1)</sup>

【はじめに】新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月に中国武漢市にて最初に報告された後、全世界に拡大した。その後何度かのピークを繰り返し、2021年10月に緊急事態宣言が解除された。COVID-19の流行により多くの臨床現場にSARS-CoV-2核酸増幅装置が導入された。当院における新たに導入された装置のアフターコロナに向けての活用方法を報告する。【SARS-CoV-2検査】当院は以前より結核菌群核酸増幅法としてLAMP法を取り入れていたので、LAMP法によるSARS-CoV-2核酸増幅法を実施した。新たな装置（環境整備）としてQIAGEN（核酸抽出装置）とLAMP装置2台追加（計3台）、その後RT-PCRも導入した。【稼働状況】LAMP装置3台：当院は2020年7月より全入院患者実施。陰性確認の上、入院。2020年12月入院前LAMPでは陰性であった入院患者が発症。患者、職員、業者等合計71人のクラスターが発生しており、その時は300件前後/日の検査を実施していた。現在も入院時実施している。ランダム処理のため3台必要であるが、空き時間もある。QIAGEN装置：LAMP陽性時のみ稼働（偽陽性対策）。現在は

ほとんど稼働していない。

RT-PCR装置：2021年9月より県からの要請を受けて、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ医療機関となり、患者入院時に稼働。【アフターコロナへの取組み】SARS-CoV-2検査の検査件数は減少し、今後も減少すると考えられる。新たに導入した機器の稼働も減少している。そのため別の検査項目の取り入れを考える。QIAGEN装置とLAMP装置を組み合わせ考え、レジオネラ検出に取り組む。【考察】当院のレジオネラ検査は尿中レジオネラ抗原、喀痰培養のみである。また、尿中抗原試薬はレジオネラニューモフィラI型に反応するのみで、その他の型には反応しない。喀痰培養では尿中抗原陽性検体を培養するが、全ての検体で発育するのではない。尿中抗原の検査数は300件前後/年あるので、QIAGEN-LAMPによるレジオネラ検出件数もそれなりに見込める。【まとめ】新たに導入した検査機器を活用し、アフターコロナの検査室運営に活かしたい。

寺岡記念病院 臨床検査室 0847-52-3140（内線303）